

平成27年度 帯広市立緑丘小学校 全国学力学習状況調査結果と考察

1 調査の概要

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

また、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 期日 平成27年4月21日（火）

(3) 対象 第6学年

(4) 内容

① 教科に関する調査（国語、算数）

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に常用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

*理科の問題については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問い、1単位時間とする。

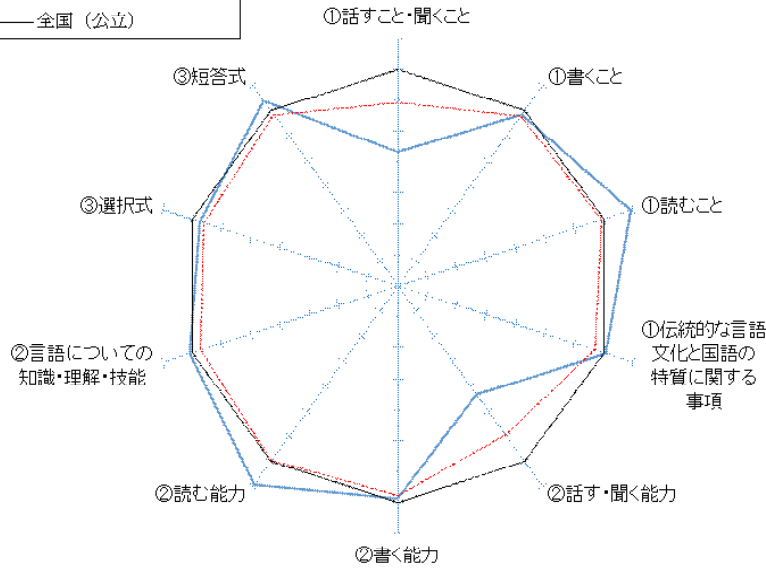
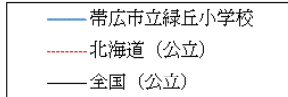
② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等に関する調査

2 学力調査の結果

(1) 各教科の概観

① 国語A



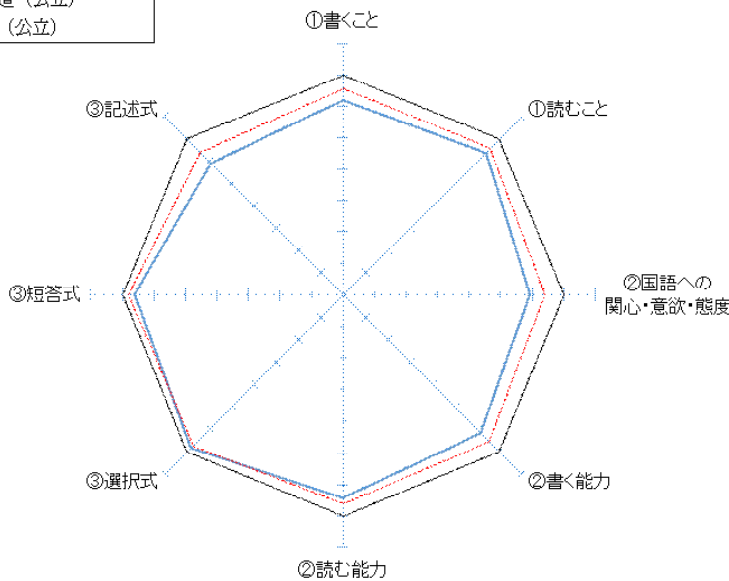
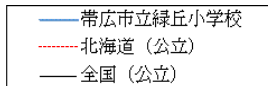
グラフは、全国平均正答率（黒線）を100としたときの全道（赤線）と本校（青線）を示しています。違いがわかりやすいように、円の中心値を「30」としました。

- 平均正答率は全国平均・全道平均と同等で、やや上回った。
- 「読むこと」領域で全国・全道を上回ったが、「話すこと・聞くこと」領域では下回った。
- 漢字は、「読み」より「書き」の方が正答率が低い傾向が見られる。
- 文法に関する問題

では、用語の把握が不十分なものの、構文に対する理解はできている。

- 「新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える」設問は、正答率が高い。

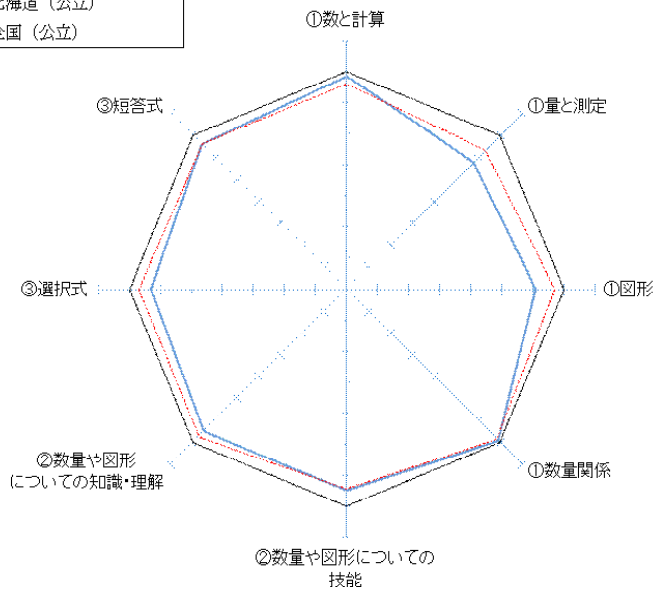
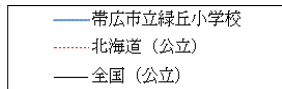
② 国語B



- 平均正答率は全国平均・全道平均をやや下回った。
- 全国・全道とも、「『記述式』問題の正答率が低い」傾向が見られるが、本校はその傾向が顕著である。
- 「目的や意図に応じ、記事に見出しをつける」設問は、正答率が低かった。
- 「登場人物の行動

を基にして、場面の移り変わりを考える」設問は、正答率が高かった。

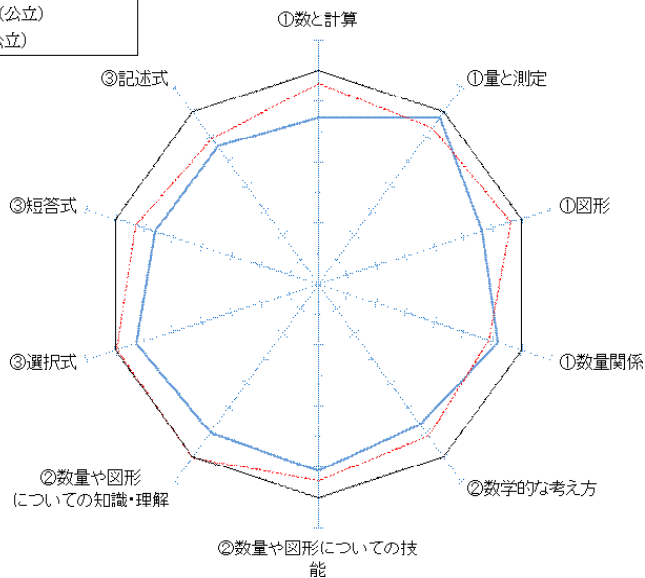
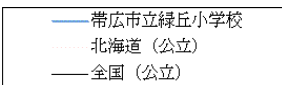
③ 算数A



性質と三角形の性質を結びつけて思考し、解答する」問題に対する正答率が低かった。

- 平均正答率は、全国平均・全道平均をやや下回った。
- 基本的な計算問題の正答率は、全国・全道を上回っている。
- 「量と測定」「図形」領域の正答率が低く、全国・全道を下回った。
- 「二直角、三直角をもとに、大きい角の大きさを捉える」問題、「円の性質と三角形の性質を結びつけて思考し、解答する」問題に対する正答率が低かった。

④ 算数B

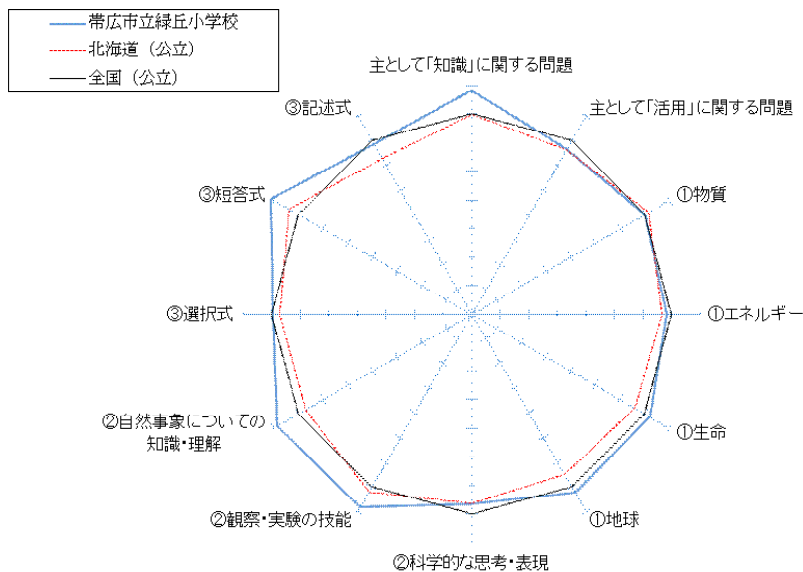


率が低く、全国・全道を下回った。また、問題の文章が長く設定が複雑になるほど、全国・全道との正答率の差が大きくなる傾向がある。

- 特に、「図形」領域で「図形の性質や約束を踏まえて思考し、解答する」問題に対する正答率が低かった。

- 平均正答率は、全国平均・全道平均を下回った。
- 全国・全道とも「算数A（主として知識）より算数B（主として活用）の方が正答率が低い」傾向があるが、本校はその傾向が顕著である。
- 「図形」「数量関係」領域の正答

⑤ 理科



- 平均正答率は全国平均・全道平均と同等で、やや上回った。
- 「主として知識に関する問題」は全国・全道を上回ったが、「主として活用に関する問題」はやや下回った。
- 特に「自然現象についての知識・理解」「観察・実験の技能」に関する

設問への正答率が高く、全国・全道をかなり上回った。

- 問題形式についてはどの形式の解答でも全道を上回り、短答式の設問では全国よりもかなり上回った。

(2) 調査結果概観

- 基礎的な知識が、多くの児童に定着してきたことがわかる。
一方、応用的な記述問題になるとまだ正答率が低い。問題文の読解力・解答の際の記述力の双方が課題である。
- 学習状況調査の結果を見ると、国語と算数について「～の勉強は大切だと思いますか」「～の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」といった設問に肯定的な解答が多かった。

2 学習状況調査の結果

(1) 起床・就寝時刻◇ 2.3

「毎日同じくらいの時刻に起きている」に「している」と答えた児童は39.1%、「毎日同じくらいの時刻に起きている」に「している」と答えた児童は58.6%であり、それぞれ全国・全道と同程度である。

(2) 話す・聞く▼▼ 7.8

「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」に「当てはまらない」と答えた児童が35.6%あり、全国・全道より20ポイント程度多い。

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」に「当てはまる」と答えた児童は42.5%で、全国・全道より12～13%少ない。

(3) テレビ・ビデオ・DVD▼ 10

「月～金曜日にテレビ・ビデオ・DVDを4時間以上見たり聞いたりする」児童は25.3%と、全国より6.0ポイント多い。「2時間以上」の児童の合計は71.2%で、全国より12ポイント多い。

(4) テレビゲーム（コンピュータ、スマートフォンなどを使ったものも含む）▼ 11

「月～金曜日に4時間以上する」児童は11.5%、「2～4時間する」児童は31.0%で合わせて42.5%である。全道より5.0ポイント、全国より12.3ポイント多い。

また、携帯電話やスマートフォンで通話やメールをする時間も長い傾向がある。

(5) 家庭学習▼▼△▼ 13.14

「月～金曜日に1時間以上する」児童は35.6%であり、全道より19.0ポイント、全国より27.1ポイント少ない。

「土日など学校が休みのときに1時間以上する」児童は37.9%で、全道より10ポイント程度少ない。

「家で学校の宿題をしている」という設問に「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童は100%。全国が96.8%、全道が95%であった。

「家で学校の予習をしている」という設問には、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童は39.1%、「復習をしている」「どちらかといえばしている」と答えた児童は52.9%であった。全国より若干少ない、全道より10ポイント程度少ない。

(6) 読書▼ 16

「月～金曜日に1時間以上する」児童は22.9%で、全国・全道より5ポイント程度多い。

一方「10分より少ない」「全くしない」児童は44.8%、全道より6.0ポイント、全国より9.1ポイント多い。

(7) 地域との関わり▼△ 27.31

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という設問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は41.3%であり、全道より17.7ポイント、全国より25.6ポイント少ない。

「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童は31.0%であり、全道より6.5ポイント、全国より5.3ポイント多い。

(8) 人とのかかわり△33.34.35

関連する3つの質問「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に「当てはまらない」と回答した児童は0.0%であった。いじめを許さない強い心が、児童全員に育てていることがわかる。

全国・全道では、それぞれ1～2%の回答が見られている。

3 学力・学習状況の改善に向けて

- (1) 全国学力状況調査、webチャレンジテストの各教科・単元・設問別の解答状況をつぶさに分析し、全学年で日常の授業に生かします。
特に、設問の文章の読み取りや文章記述による解答など、習得した基礎的事項を活用する問題に習熟するよう指導します。
- (2) TTと習熟度別少人数指導により、児童の学ぶ意欲を引き出しながら学習事項の定着を図ります。
特に基礎的な学習事項については、どの児童にも定着させるよう個に応じた指導を進めます。
- (3) 授業のねらいを明確にし、振り返りで授業内容を定着させる授業を徹底するとともに、補足的な学習や家庭学習について研究し、活性化します。
- (4) 学年研修などでの教員の交流を活性化し、授業力向上を進めます。
- (5) 職員会議や校内研究の機会を通じ、学習規律の徹底と家庭学習の仕方について指導方法を確認し、児童に指導します。
- (6) 校内研究では、児童の「話すこと・聞くこと」に焦点を当て、国語の授業を中心に意欲と能力の向上を図ります。
- (7) PTAと連携して、家庭での学習習慣・生活習慣向上を促します。